

CLOSE UP!



金属代替材料として
グラスファイバーで
補強された高強度の
コンポジットレジンを用いた
三ユニットブリッジ治療

平成26年7月より、「金属代替材料としてグラスファイバーで補強された高強度のコンポジットレジンを用いた三ユニットブリッジ治療」が厚生労働省の指定する先進医療技術として、本院の口腔インプラントセンターでの実施が承認されま

● グラスファイバーで強化したコンポジットレジンを用いて

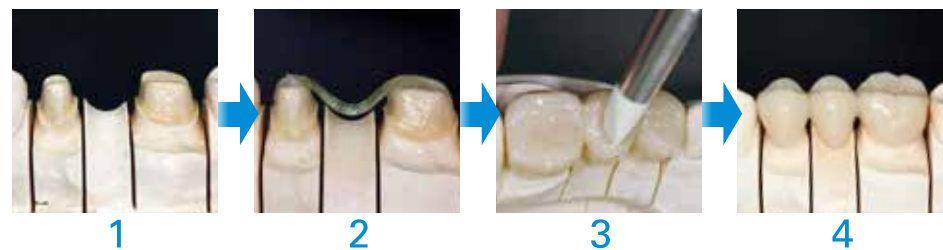
奥歯(臼歯)を1歯失った場合に、その両隣の歯を削って連なった歯冠(口の中で見える部分)を装着するブリッジ治療は、保険診療では金属製になり(図A)、より自然なセラミックス製の歯冠は自由診療(保険外診療)になります。歯の色に似た硬質プラスチック(コンポジットレジン)製の歯冠は強度に問題があり、前歯や小臼歯のような噛む力が小さい範囲に限られます。

プラスチックを強化する代表的な方法はガラス繊維を混合して固める方法であり、今回のブリッジの製作方法でもグラスファイバーを両隣の歯をつなげる骨組みにして(図B/1)、コンポジットレ진을積み上げていきます(図B/2~4)。コンポジットレジン単体より2倍以上の強度のブリッジとなり、金属材料を使用しなくても噛む力が大きく発揮される臼歯に使用可能となりました。



図A

図B



した。そこで今回は、奥歯のブリッジに白い歯の色をした硬質プラスチック製のブリッジが提供できるようになった先進医療について紹介します。

■説明は、
徳島大学病院 口腔インプラントセンター
友竹 偉則(ともたけ よりとき) 副センター長
問い合わせ Tel.088-633-7371(歯科外来)



● 治療の選択肢が広がる

今回の先進医療の導入によって、保険診療に則って臼歯に白い歯冠色のブリッジが選択できるようになりました(図C)。これまでの金属製ブリッジに比べ、装着する際の調整や研磨仕上げが容易で、小さな破損が起こった場合にも直接口腔内で修理ができます。また、歯科用金属にアレルギーがある患者さんに対しても使用可能なブリッジになります。

一方で、強い食いしばりや歯軋りがある方はブリッジの磨耗が大きくなって咬み合わせが悪くなる場合もあるので、先進医療の担当医、補綴歯科専門医によって治療を行います。また、失った歯の部位や支台になる歯の状態によっては適応外になる場合もあります。本治療に興味がある方は、本院歯科の担当外来でご相談ください。



図C